

い生活費軽減についで、亦合神電灯神道下、電球神引替購置会生活必需品値下等にも機会ある毎に最良の仕方はなす。

(二) 公正なる検炭制の確立に就いては、その炭坑に適當せる具體案を提出し之を獲得しなくてはならぬ。

(三) 労働法現廠等に就いては炭坑主が従来自己の利益を増加せしむる爲めに意識的に違反して来たその爲に幾多の労働者を犠牲にした。我々は法現の違反事實を摘発し法規の厳守を迫らなくてはならぬ。

3. 政治斗争一年に對してはもとより総同盟の既定方針に従ふものであるが、労働組合は其の本来の經濟的使命達成に力を注ぎ、此れが延長しては政治闘争へ進み可きを持くに留まるべき。

4. 我々は組合員全員に對する階級激化運動を不斷に行はなくてはならぬ。其れは特に末組労働者に對して行はなくてはならぬ。若し此れを怠る時は利が組合の階級性に危険を及ぼすものなることを知らねばならぬ。階級的激化運動は理論的と共に實踐的にも之を行ふ可きである。前期の幾本主義の特長たる反初主觀の旺盛なる現下の過程に於て更に組織的に計画的に此れを行はなくてはならぬ。

5. 本邦及支那を通じて組合の財政を充実することとは初下の急務である。組合の對政はあくまで組合最大衆自身の負担を原則としなくてはならぬ。

6. 組合の全體的統制は地方分権主義を指して民主的中央集権主義により各支部聯合会各支部の運動統一を確保しなくてはならぬ。

七. 組織運動に因して従来の炭坑の組合運動は英雄中心主義の點があつたが、今後はこの一切の悪習を捨て、堅固なる組織の基を打ち立て、此れなる斗争の進行す可きである。従来は組織その炭坑内に於ける中堅分子が多し、他の働きのあつた一支部内のみならず、専ら自刻的に拡大強代を圖り、其の炭坑情勢に應じて硬断的硬断的なる組織方針を以て進まなけれはならぬ。

八. 炭坑地方炭坑資本家に對する特種なる方針として、集産層炭坑組合と在炭坑組合は強力を必要とし、資本家組合がある。大半炭坑は団体集産層炭坑組合は強力を必要とし、労働力組合對炭坑中甲組合を以て、集産主義、炭坑によつて、此れを拒絶して、炭坑の団体互助会は一、二の炭坑に於ては、言語因断を取扱はる。労働組合は、常に暴力的であり、又労働行政に對しては、言語因断を取扱はる。労働組合は、常に暴力的であり、又労働行政に對しては、言語因断を取扱はる。労働組合は、常に暴力的であり、又労働行政に對しては、言語因断を取扱はる。労働組合は、常に暴力的であり、又労働行政に對しては、言語因断を取扱はる。

日本石炭坑式組合第四回年次大会